



## 11月の園だより

太陽の子保育園 H29.11

10月は運動会に遠足と雨に悩まされる月となりましたが、気がつく公園の樹木はすでに色づき、秋の深まりは着実に進んでいるようです。

現在行っている個別面談では4月当初から約半年間のお子様の園での様子や活動を、限られた時間ではありますがお話しをさせていただいています。面談を通じて、成長をより一層感じていただければと思います。すでに面談を終えた保護者の皆様につきましては、お忙しい中足を運んでいただき本当にありがとうございました。

これからも沢山の楽しい行事を控えています。気候の変化で体調を崩しやすくなってきますが、生活リズムを整え元気に登園していただければと思います。



## 平成30年度 保育園入園のしおりを配布します

来年度4月以降に羽村市内の保育園に入園をご希望される方に対して「保育園入園のしおり」「入園申込書」「勤務証明書」を11/1より配布します。ご必要な方は受付までお声かけください（提出は羽村市役所子育て支援課保育・幼稚園係窓口12/1～12/14）。

保育園変更を希望する方に「保育園変更願」も配布しています。

次年度以降継続して保育園をご利用する方への「継続申請書」は1月5日～19日の書類受付予定となっています。

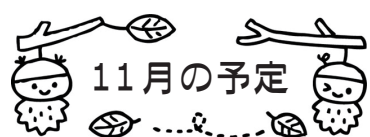
## スポーツセンターでの運動会にご協力いただき本当にありがとうございました

親子運動会では雨天にも関わらず、多くの方にご参加いただきありがとうございました。4月からの半年間で、心身ともに成長したお子様の姿に感慨もひとしおだったのではと思います。また、アンケートにもご協力をいただきありがとうございました。皆さまからいただいた貴重なご意見をもとに、スポーツセンターでの実施方法を含め、来年度以降の貴重な参考資料とさせていただきます。



## もちつき大会(12/15) 餅つき手を大募集!!

12月15日(金)に実施する「もちつき大会」でつき手としてご協力いただける保護者の方を募集しています(要細菌検査)。詳細は後日配布するお便りをご覧ください。



## 11月の予定

- 1(水) 懇談会(ひよこ)
- 2(木) 懇談会(ぺんぎん)
- 6(月) 調理保育(らいおん)
- 7(火) 保育参加・懇談会(うさぎ)
- 8(水) 保育参加・懇談会(ぱんだ)
- 9(木) 保育参加・懇談会(くま)
- 10(金) 保育参加・懇談会(らいおん)
- 14(火) 体育指導(幼児)
- 15(水) 音楽指導(幼児)
- 16(木) 避難訓練
- 20～24 身体測定
- 25(土) はむら保育展
- 28(火) お誕生日



## 12月の予定

- 1(金) 手洗い指導(幼児)
- 5(火) 音楽指導(幼児)
- 8(金) お誕生日会
- 11～15 身体測定
- 12(火) 体育指導(幼児)
- 13(水) 避難訓練
- 15(金) もちつき
- 16(土) 大掃除
- 21(木) 音楽指導(幼児)
- 22(金) 職員会議
- 22(金) 調理保育(らいおん)

## はむら保育展

11/25(土) 10:00～16:00

保育展は、羽村市内にある認可保育園が、普段の保育の様子を広く皆様に紹介するイベントです。今年度の保育展は、らいおん組の佐伯友紀が担当となります。

羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」

## ほんとうに頭のいい子、賢い子は早期教育では育たない

「3～6歳 能力を伸ばす 個性を光らせる」  
汐見稔幸著 主婦の友社より抜粋

### 早期教育にはその子を優秀な子にする保証はない

「〇〇ちゃんはもう漢字まで読める」「〇〇ちゃんは2けたの足し算ができる」というようなことを聞くと、「子どもは遊ぶのがいちばん」と思っている、「うちの子はだいたい遊ぶかな」と心配になるものです。

それに最近は「脳科学で脳を発達させ、才能を開花させる」といううたい文句の早期教育もあり、「ほんとうに遊んでばかりでいいのだろうか」と不安に思うお母さんも多くいるでしょう。

ですから、ここであらためて「早期教育」について考えてみたいと思います。

早期教育とは、「通常よりも早くから意識的な教育を始めて、優秀な子に育てる」というような意味ですが、それが「その子を優秀な子にするという保証は、必ずしもない」ということはよく知っておいてください。

### 脳科学で脳を発達させることはできない

「赤ちゃんや幼児の脳は、脳科学をもって訓練をすればうまく発達させることができ、才能を開花させることもできる」とうたった教育メソッドのようなものが、テレビや雑誌などでよくとり上げられています。では、脳科学で赤ちゃんや幼児の脳を発達させることができるのでしょうか。

大脳の表面にある大脳皮質には数百億個から1千億個もの神経細胞が詰まっていて、そのひとつひとつの神経細胞に数十から1万カ所くらいのシナプス（神経細胞間のつなぎ目のようなもの）ができるといわれています。それぞれがどの神経細胞と結びつくのかは、たぶん人類の進化の歴史の中でつくり上げられた遺伝子で決まっていて、それを早めたりおそくしたりすることは、いまのところ遺伝子組み換え以外にはできないといわれています。ですから現在のところ、脳科学の進歩は目ざましいのですが、その子が生まれ持った脳の成長の速さを速めることはできないと考えられます。

そうすると、やはりたいせつなのは、好奇心と行動力を育ててやり、その子が持っている才能を最大限に伸ばせるようにしてやることなのです。

「右脳を鍛える」「左脳を鍛える」という言葉もあちこちで使われていますが、おそらくそれは無理でしょう。もしそれができる方法が見つければ、ノーベル賞級の発見です。



### 体験がなければ、人間は深く考えられない

ほんとうに頭のいい子、賢い子を育てるというのは、どういうことでしょうか？

子どもには「深く考えられる人間」になってもらいたいものです。少なくとも自分の体験したこと、本で読んだこと、人から聞いた話などを自分の世界にとり込み、深く省察していくことができる人間にはなっていない。大人になったときに、「あの人の判断は深いよね」と言われるようになってほしいということです。その基本は、やはり体験の豊かさです。

体験がないことは、本を読んでもあまり心に残りません。恋愛経験がないと恋愛小説も深く読めませんし、失敗した経験があるからこそ、小説の主人公の失敗に心が痛むのです。4歳でも字を読めれば本を読むことはできますが、字を読むだけで、内容を深く理解することはできないでしょう。

### ほんとうの賢さは「深く考えること」にある

このように、人間が賢くなるには体験が不可欠なのですが、体験は早期に教育できません。

早期教育でできるのは、計算を速くすることやひらがながほかの子どもより速く読めることであり、反応をパッと速くすることを訓練することです。

しかし、そういう教育は「深く考えること」のじゃまをします。速く反応することが正しいと思ってしまうと、深く考えるのはよくないことになってしまいます。本来はものごとをじっくり考えることが人間らしいことなのに、考えないでさっさと答えを出してしまうような人間に育ててしまう可能性もあります。

その意味で、深い理解ができる子どもを育てることは、早期教育にはできないといえます。ほんとうに頭のいい子に育てるには、体験することの豊かさや深さが前提的に大事なのです。

人間は促成栽培はできません。促成栽培をしたら、味もコクもない人間に育ってしまうかもしれないことを知っておいてほしいのです。

そして、早く熟せば早く腐ることも…。